

## 資料②：平成 25 年度実証運行結果について

### 目 次

1.実証運行の運行状況 .....	1
1-1.1 日ごとの運行状況.....	2
1-2.車両の稼働状況 .....	3
2.実証運行の利用状況 .....	4
2-1.利用者数 .....	4
3.デマンドバス実証運行の評価.....	17

平成 26 年 5 月

南 城 市

# 1.実証運行の運行状況

- 平成 25 年 12 月 9 日(月)より、65 才以上の市民を対象としたデマンドバス「おでかけなんじい」を、平成 26 年 2 月 28 日(金)より、観光客を対象とした「観光おまかせなんじい」を、それぞれ 3 月 31 日(月)まで運行しました。
- 「観光おまかせなんじい」は、ユインチホテル南城を起点に、南城市内を周遊するルート設定となっており、必ず立ち寄るメインポイントと、観光客の要望によって降車する立ち寄りポイントを設定しました。



図-1.観光おまかせなんじいの周遊ルート

## 1-1.1 日ごとの運行状況

- 12/9～3/31 までの期間でこれまで 3,046 便が運行され、平日で平均 30.5 便/日、休日で平均 22.9 便/日運行されました。
- 平日の時間帯別では、10 時台～14 時台が 2.8～3.2 便/時と多く、18 時台～20 時台が 0.2～1.6 便/時と少なくなりました。
- 休日の時間帯別では、10 時台が 2.6 便/時と最も多く、9～14 時台が 2.0 便/時以上と、午前～お昼にかけての便数が多くなりました。

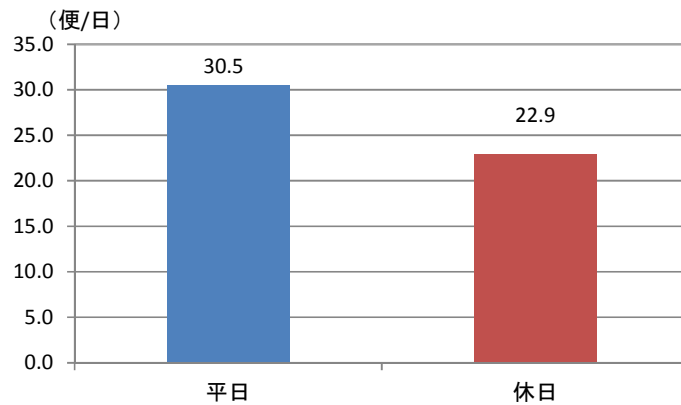


図-2.デマンドバスの運行状況(平日・休日別)

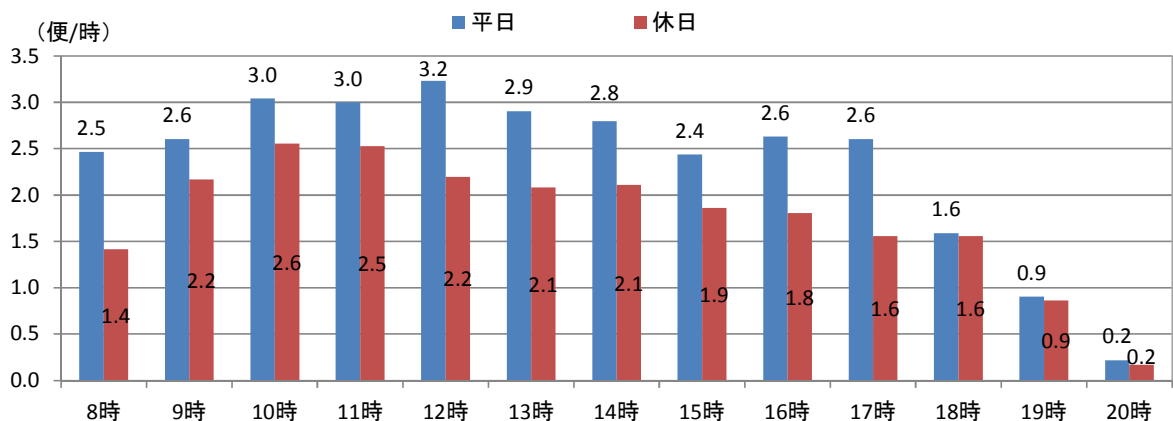


図-3.デマンドバスの運行状況(時間帯別)

## 1-2.車両の稼働状況

- 3/31 までの車両の稼働状況は、5 台平均で平日が 6.0 便/日、休日が 4.6 便/日、平均で 5.6 便/日稼働しました。
- 個別の車両ごとにみると、3号車、1号車は 1 日平均 7.8 便～8.4 便と多く稼働しましたが、5号車は観光客向けに運用していることもあり、平均 2.4 便/日と稼働回数が少なくなりました。
- 3/31 までの平均乗車人員は、全運行本数 3,046 便のうち、1,361 便（44.7%）が 1 人乗車、952 便（31.3%）が 2 人乗車と全体の約 7 割強が 2 人以下の乗車となっており、1 便あたりの平均乗車人員は 2.0 人と座席数にはまだ余裕がありました。

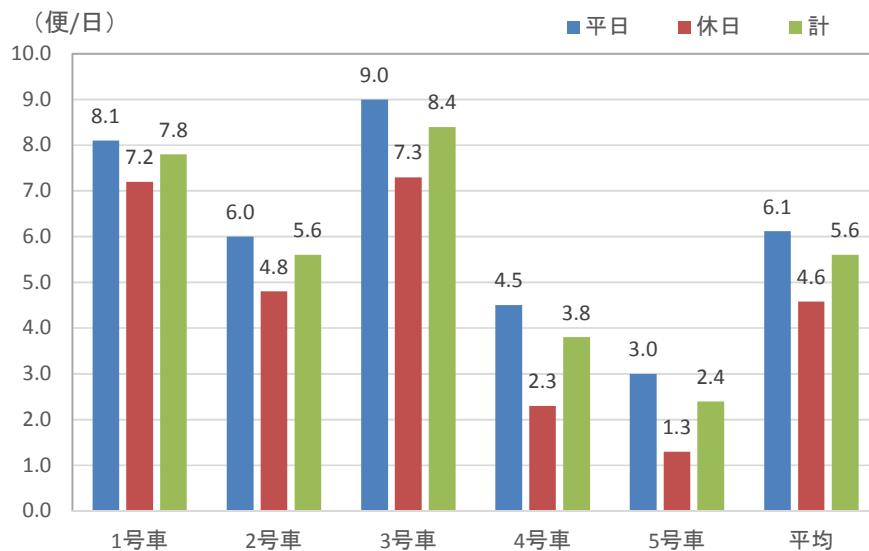


図-4.デマンドバスの車両別の稼働状況

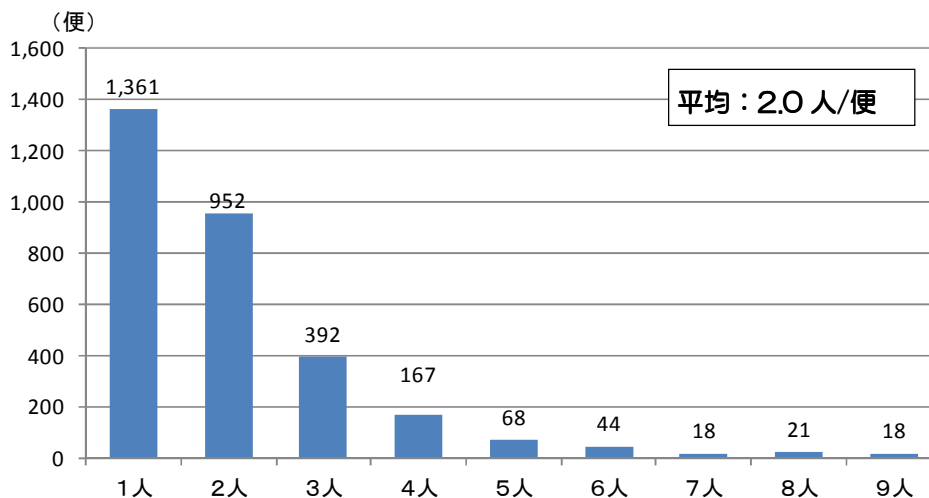


図-5.一便あたりの利用者数

## 2.実証運行の利用状況

### 2-1.行政区別の登録者数

- 3/31現在で1,144名の方がデマンドバスに登録しており、地域別では「玉城地域」336名、「佐敷地域」275名、「大里地域」265名、「知念地域」193名の順となりました。
- 地域別の65歳以上人口あたりの登録率は、「玉城地域」13.3%、「知念地域」13.9%、「佐敷地域」11.7%、「大里地域」10.5%となっており、路線バスの利便性が低い「玉城地域」及び「知念地域」の登録率が13%以上と高くなりました。
- 行政区別の登録率は、「平川」、「大里第二団地」など登録者なしの0%から「大里ニュータウン」の46.2%と行政区により大きな差がみられました。
- 「大里ニュータウン」以外では、「仲村渠」31.8%、「つきしろ」31.3%、「富祖崎」、「親慶原」28.8%の順で高くなりました。

表-1.デマンドバスの行政区別登録者数

行政区	65歳以上人口	登録者数	登録率	備考	行政区	65歳以上人口	登録者数	登録率	備考		
玉城地域	親慶原	299	86	28.8%		佐敷地域	津波古	615	39	6.3%	
	垣花	111	8	7.2%			小谷	226	11	4.9%	
	仲村渠	66	21	31.8%			新里	193	16	8.3%	
	百名	190	36	18.9%			兼久	95	14	14.7%	
	新原	68	7	10.3%			佐敷	193	21	10.9%	自衛隊含まず
	玉城	50	1	2.0%			手登根	205	38	18.5%	
	中山	69	10	14.5%			伊原	77	16	20.8%	
	奥武	255	11	4.3%			屋比久	103	27	26.2%	
	志堅原	84	8	9.5%			外間	42		0.0%	
	堀川	131	18	13.7%			富祖崎	118	34	28.8%	
	富里	81	13	16.0%			仲伊保	159	26	16.4%	
	富山	91	10	11.0%			新開	333	33	9.9%	
	屋嘉部	89	9	10.1%			小計	2,359	275	11.7%	
	糸数	145	31	21.4%			西原	37	3	8.1%	
	喜良原	175	7	4.0%			南風原	70	7	10.0%	
	船越	235	44	18.7%			平良	175	1	0.6%	
	愛地	132	7	5.3%			嶺井	128	18	14.1%	
前川	248	9	3.6%		嶺井団地	81		0.0%			
小計	2,519	336	13.3%		古堅	88	9	10.2%			
知念地域	志喜屋	204	40	19.6%		福原	100	1	1.0%		
	山里	67	8	11.9%		島袋	103	22	21.4%		
	具志堅	55	7	12.7%	刑務所含まず	当間	121	5	4.1%		
	知念	186	17	9.1%	自衛隊含まず	仲程	110	15	13.6%		
	吉富	46	4	8.7%	自衛隊含まず	高宮城	64	4	6.3%		
	久手堅	154	6	3.9%		銭又	51	2	3.9%		
	安座真	142	26	18.3%		平川	88		0.0%		
	知名	203	51	25.1%		稲嶺	162	12	7.4%		
	海野	145	13	9.0%		大里グリーンタウン	527	51	9.7%		
	久原	94	9	9.6%		目取真	143	33	23.1%		
	久高	94	12	12.8%		湧稲国	122	23	18.9%		
小計	1,390	193	13.9%		大城	149	34	22.8%			
大里地域					稲福	66	3	4.5%			
					真境名	57	9	15.8%			
					大里団地	26	1	3.8%			
					大里第二団地	11		0.0%			
					大里ニュータウン	26	12	46.2%			
					第二グリーンタウン	22		0.0%			
					小計	2,527	265	10.5%			
					つきしろ	240	75	31.3%			
					小計	240	75	31.3%			
					計	9,035	1,144	12.7%			

## 2-2.利用者数

### (1)おでかけなんじい

#### 1)行政区別の利用者数

- 自宅を出発地とする利用者の行政区別の人数は、「百名」が175人と最も多く、次いで、「知名」が165人、「大里グリーンタウン」が151人、「親慶原」が104人となりました。
- 人口100人あたりの利用者数は、「屋嘉部」112.4人、「兼久」106.3人、「仲村渠」104.5人、「百名」92.1人、「西原」89.2人、「中山」87.0人の順で多くなりました。
- なお、全体の利用者数は延べ6,234人、純利用者は473人となっており、一人あたり平均で13.2回利用がありました。

表-2.デマンドバスの行政区別利用者数

行政区	65歳以上人口	登録者数	利用者数	高齢者100人あたり利用者数	備考	行政区	65歳以上人口	登録者数	利用者数	高齢者100人あたり利用者数	備考	
玉城地域	親慶原	299	86	104	34.8	佐敷地域	津波古	615	39	47	7.6	
	垣花	111	8	12	10.8		小谷	226	11	35	15.5	
	仲村渠	66	21	69	104.5		新里	193	16	78	40.4	
	百名	190	36	175	92.1		兼久	95	14	101	106.3	
	新原	68	7	8	11.8		佐敷	193	21	36	18.7	自衛隊含まず
	玉城	50	1		0.0		手登根	205	38	51	24.9	
	中山	69	10	60	87.0		伊原	77	16	29	37.7	
	奥武	255	11	60	23.5		屋比久	103	27	73	70.9	
	志堅原	84	8	60	71.4		外間	42			0.0	
	堀川	131	18	51	38.9		富祖崎	118	34	18	15.3	
	富里	81	13	12	14.8		仲伊保	159	26	8	5.0	
	富山	91	10	11	12.1		新開	333	33	73	21.9	
	屋嘉部	89	9	100	112.4		小計	2,359	275	549	23.3	
	系数	145	31	52	35.9		西原	37	3	33	89.2	
	喜良原	175	7	1	0.6		南風原	70	7	6	8.6	
	船越	235	44	101	43.0		平良	175	1	1	0.6	
	愛地	132	7	63	47.7		嶺井	128	18	41	32.0	
	前川	248	9	2	0.8		嶺井団地	81			0.0	
	小計	2,519	336	941	37.4		古堅	88	9	28	31.8	
知念地域	志喜屋	204	40	95	46.6	福原	100	1		0.0		
	山里	67	8	7	10.4	島袋	103	22	6	5.8		
	具志堅	55	7	25	45.5	当間	121	5	2	1.7		
	知念	186	17	41	22.0	仲程	110	15	9	8.2		
	吉富	46	4	22	47.8	高宮城	64	4	1	1.6		
	久手堅	154	6	3	1.9	銭又	51	2		0.0		
	安座真	142	26	83	58.5	平川	88			0.0		
	知名	203	51	165	81.3	稲嶺	162	12	68	42.0		
	海野	145	13	64	44.1	大里グリーンタウン	527	51	151	28.7		
	久原	94	9	10	10.6	目取真	143	33	10	7.0		
	久高	94	12	1	1.1	湧稲国	122	23	21	17.2		
	小計	1,390	193	516	37.1	大城	149	34	6	4.0		
	大里地域						稲福	66	3		0.0	
						真境名	57	9	9	15.8		
						大里団地	26	1	1	3.8		
						大里第二団地	11			0.0		
						大里ニュータウン	26	12		0.0		
						第二グリーンタウン	22			0.0		
						小計	2,527	265	393	15.6		
						つきしろ	240	75	70	29.2		
						小計	240	75	70	29.2		
						計	9,035	1,144	2,469	27.3		

## 2)利用者数の推移

- 実証運行開始以降、3/31までに延べ6,234人、1日平均57.2人/日が利用しました。
- 利用者数は、日によってばらつきは多いですが、もっとも多い日は、3/19(水)に134人の利用がありました。
- 週毎の1日あたりの平均利用者数は、開始直後の18.9人/日から、3月第4週には78.3人/日と順調に増加しました。また、もっとも利用者の多い週は、3月第3週に84.9人/日となりました。

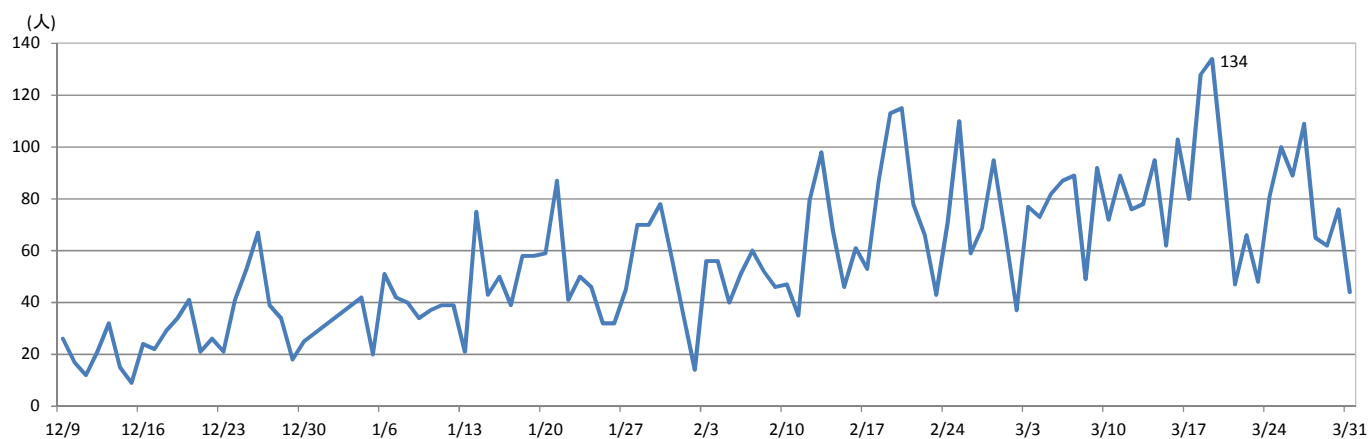


図-6.実証運行開始以降の日別の利用者数の推移

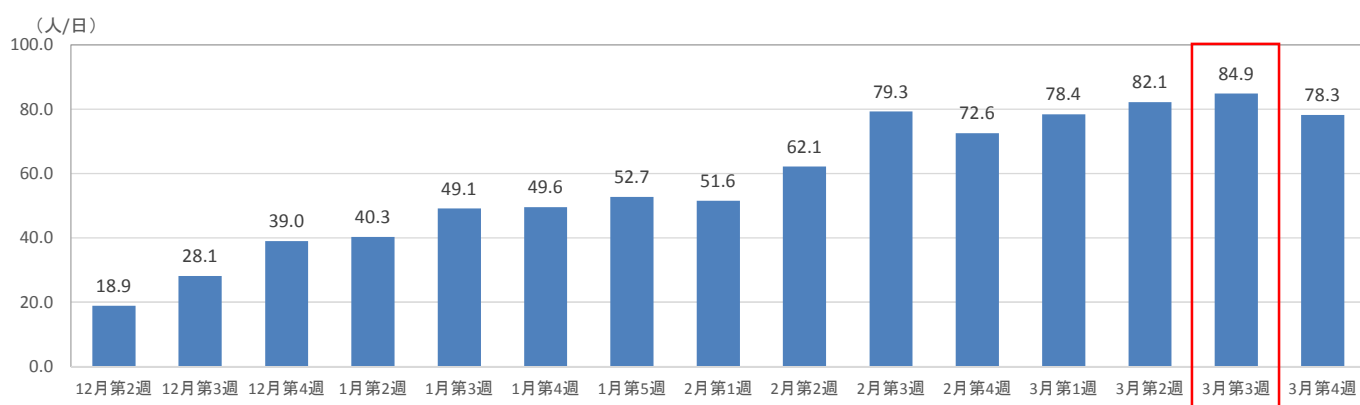


図-7.実証運行開始以降の週別の利用者数の推移

## 2) 平日休日別・時間帯別の利用状況

- 「おでかけなんじい」の平日、休日別の利用状況をみると、3/31 までで平日は 1 日平均 63.6 人/日、休日は 1 日平均 44.2 人/日が利用しており、平日の利用が多くなりました。
- もっとも利用者数が多かった 3 月の第 3 週には、平日は 1 日平均 108.3 人/日、休日は 1 日平均 53.7 人/日の利用となりました。
- 時間帯別の利用状況をみると、3/31 までで平日は 8 時台から 17 時台を中心に利用されており、休日は 9 時台から 15 時台の時間帯を中心に利用されていました。  
(H24 の事前の調査では、午前中の移動が多いという結果でしたが、実際に運行してみると、利用時間帯は分散していました。)
- なお、着信数は、8 時台が 1 日平均 7.7 回と最も多く、次いで 9 時台が 1 日平均 7.0 回、10 時台が 1 日平均 6.8 回と午前中に集中しました。

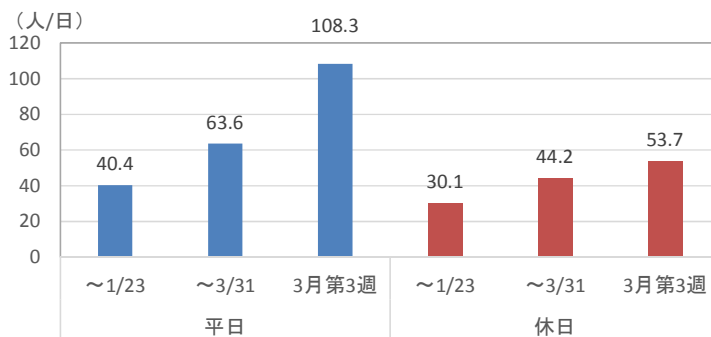


図-8.平日・休別の平均利用者数

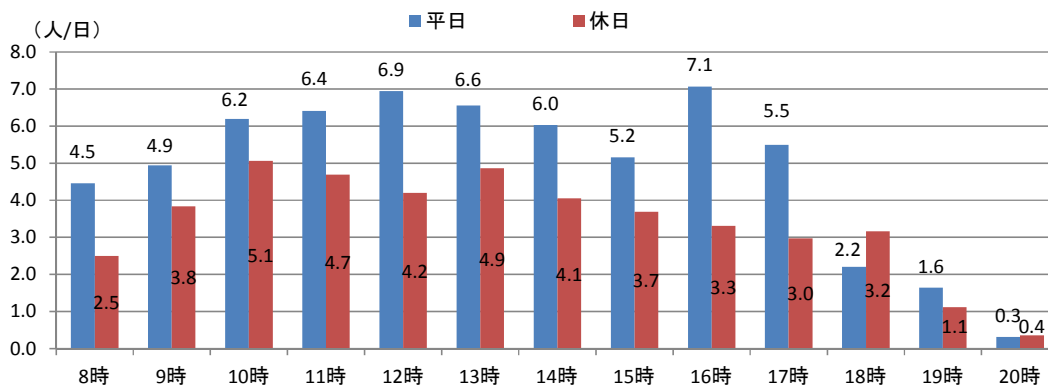


図-9.時間帯別の平均利用者数

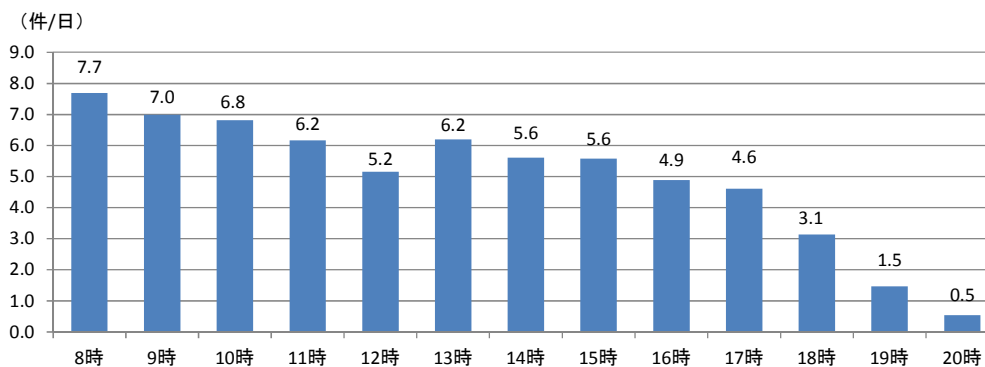


図-10.実証運行開始以降の時間帯別の着信数の推移



### 3)立ち寄り先

- 行き先の上位には、多くのスーパーがあがっており、「アトール」、「イオン大里店」、「丸大佐敷店」などへの移動が多くなっていました。
- スーパー以外では、「沖縄メディカル病院」への移動が第1位であるなど通院にも多く利用されました。
- 2番目に「南城市玉城中央公民館」が多く、その他にも「南城市老人福祉センター」、「南城市役所大里庁舎」、「湧国公民館」など公共施設への移動にも多く利用されました。
- バス停や安座真船待合所など乗り継ぎ施設への移動も多くみられ、バス停では、市外への境界に近い「馬天入口バス停」、「屋宜原バス停付近」（屋宜原バス停は八重瀬町）、「新開バス停」、「知名バス停」までの移動が多くなっています。
- その他にも観光施設や、銀行、飲食店、コンビニなどへの移動も多くみられました。

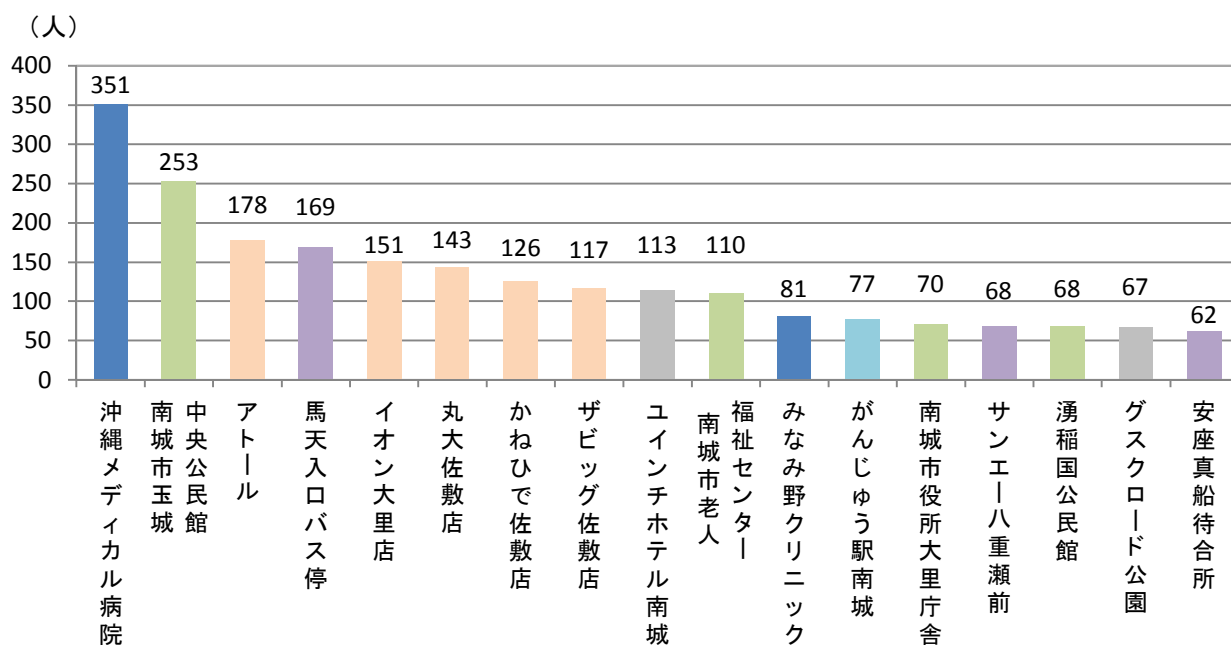


図-11.主な目的地・施設(自宅を除く)

表-3.デマンドバスでの主な立ち寄り先

公共施設		医療機関		商業施設		観光施設		交通施設		その他	
目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数
南城市玉城中央公民館	253	沖縄メディカル病院	351	アトール	178	がんじゅう駅南城	77	馬天入口バス停	169	ユインチホテル南城	109
南城市老人福祉センター	110	みなみ野クリニック	81	イオン大里店	151	おきなわワールド	60	サンエー八重瀬店前(屋宜原バス停近く)	68	グスクロード公園	67
南城市役所大里庁舎	70	みなみ耳鼻咽喉科医院	47	丸大佐敷店	143			安座真船待合所	62	琉球銀行佐敷支店	58
湧稲国公民館	68	南城歯科クリニック	30	かねひで佐敷店	126			新開バス停	29	大里パークゴルフ場	46
さしきスポレクセンター	56	ふじた眼科	26	ザビッグ佐敷店	117			知名バス停	23	チャーリーレストラン	32
つきしろ公民館	55	南城眼科	17	軽便駅かりゆし市	50					カーブス大里店	25
大里南児童館	48	瀬底歯科医院	16	高原の駅なんじょう	31					JA知念支店	24
シュガーホール	37	平田内科医院	16	大田商店	25					JA佐敷支店	21
手登根公民館	31	南城つはこクリニック	11	南城市地域物産館	19					ラブラドル	19
南城市知念社会福祉センター	26			フタバ種苗	15					居酒屋たかふじ	19
南城市役所佐敷庁舎	22			Aコープ玉城店	13					JA玉城支店	18
親慶原公民館	21									ガスト佐敷店	16
大里農村環境改善センター	17									ローソン大里グリーントウン前	14
南城市総合保健福祉センター	17										
玉城少年自然の家	13										
南城市役所本庁舎	12										

#### 4) 地域間の移動状況

●自宅から目的地までの地域間の移動人数を見てみると、玉城地域→佐敷地域、玉城地域→大里地域への移動がそれぞれ328人と最も多く、次いで、知念地域→佐敷地域289人と多くっており、スーパーや医療機関、路線バスの乗り継ぎ拠点がある佐敷地域や大里地域への移動が多くなりました。

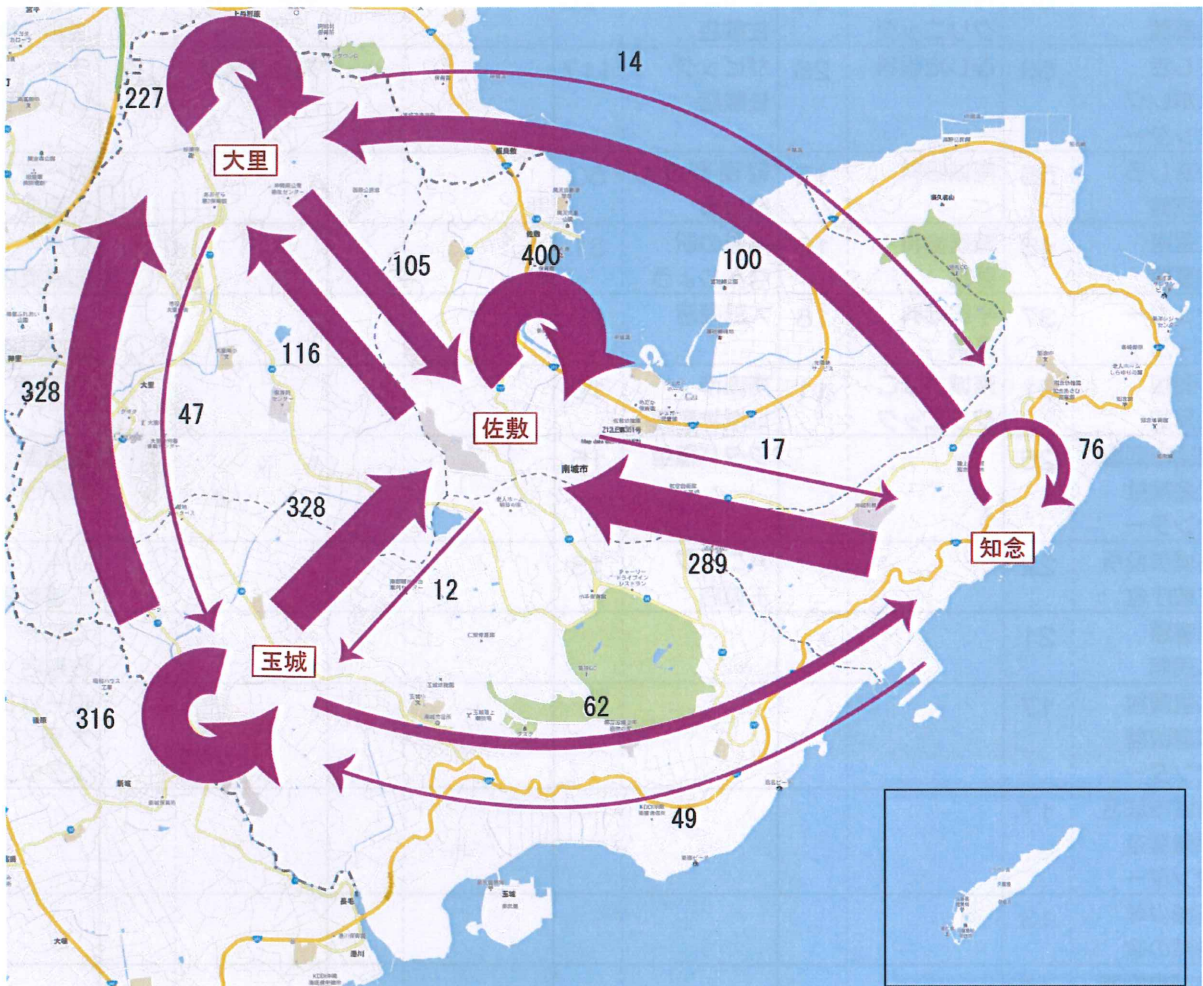


図-12. 地域間の移動状況(自宅→目的地)

### 5) 地区間の移動状況

●自宅から目的地方向の地区間の移動は、佐敷兼久→佐敷津波古が79人と最も多く、次いで、玉城親慶原→佐敷津波古62人、知念海野→佐敷津波古59人、知念知名→佐敷津波古54人、玉城奥武→玉城富里52人、佐敷新里→佐敷津波古50人の順で多くなりました。



図-13.地区間の移動状況(自宅→目的地)

## (2) 観光おまかせなんじい

### 1) 利用者の属性

- 利用者の居住地をみると、県外が47サンプル、県内1サンプルとなっており、ほぼ県外からの観光客の利用となりました。
- 都道府県別にみると、「東京」が10サンプルともっとも多く、次いで「大阪府」が9サンプル、「神奈川県」が6サンプルという結果になりました。

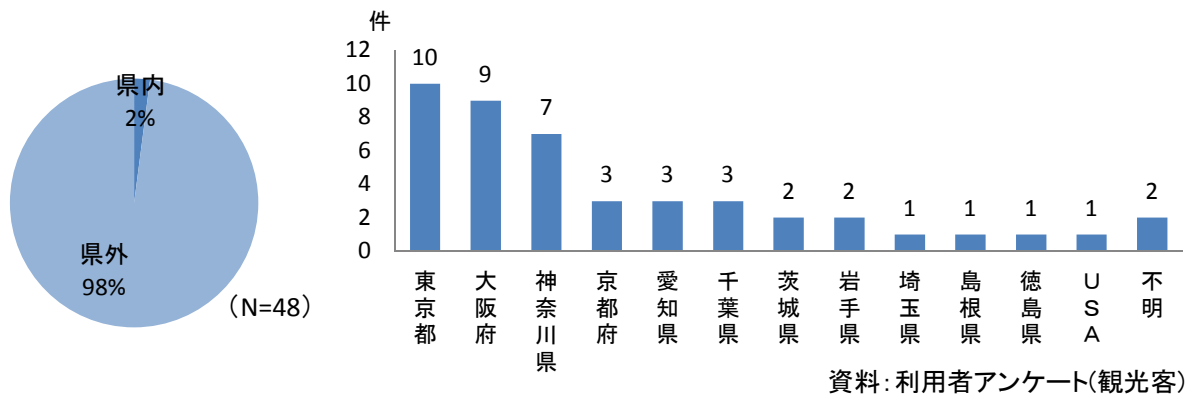


図-14.「観光おまかせなんじい」利用者の居住地(左: 県内・県外別、右: 都道府県別)

### 2) 利用者の南城市来訪状況

- 「観光おまかせなんじい」の利用者の沖縄来訪回数は、「3回以上」が58% (約2/3) と最も多く、ついで「はじめて」、「2回目」がそれぞれ19%となりました。
- 南城市へ来訪回数は、「はじめて」が69%と最も多く、ついで「2回目」が15%、「3回以上」が12%となりました。
- 沖縄に何回か来訪した経験のある人が2番目以降の立ち寄り先として南城市を選択する傾向となっていました。

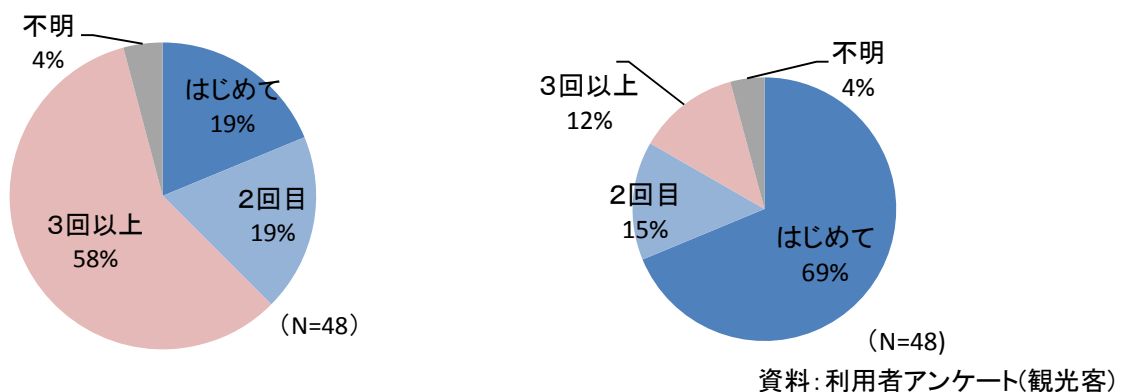
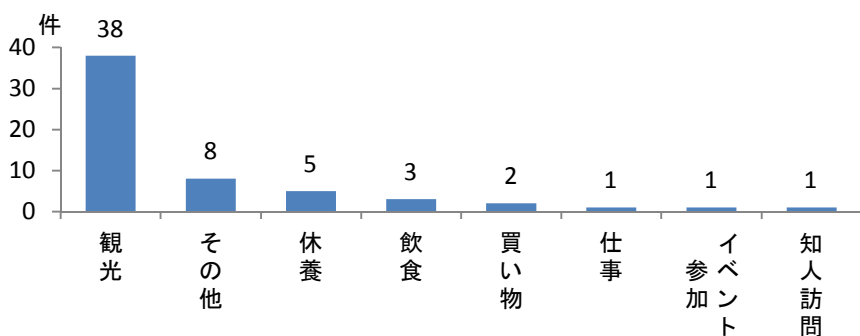


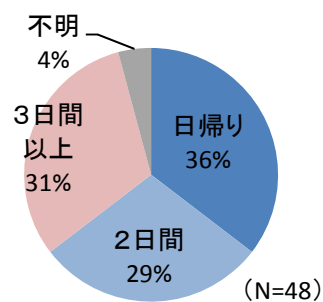
図-15.「観光おまかせなんじい」利用者の沖縄・南城市来訪状況(左: 沖縄、右: 南城市)

- 「観光おまかせなんじい」の利用者の南城市へ来訪目的は、38人が「観光」と回答しており、「その他」では植物散策、島巡りといった目的がありました。
- 南城市内での滞在日数は、「日帰り」が最も多く36%、ついで「3日間以上」が31%、「2日間」が29%となりました。
- 複数日滞在者の宿泊先をみると、「南城市内での宿泊」は42%と4割程度を占めており南城市内宿泊者にも多く利用されています。
- 南城市までの交通手段は、「路線バス」が58%と最も多く、ついで「タクシー」が15%となりました。



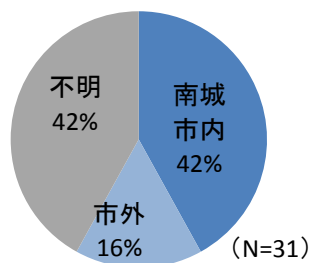
資料:利用者アンケート(観光客)

図-16.南城市への来訪目的(複数回答)



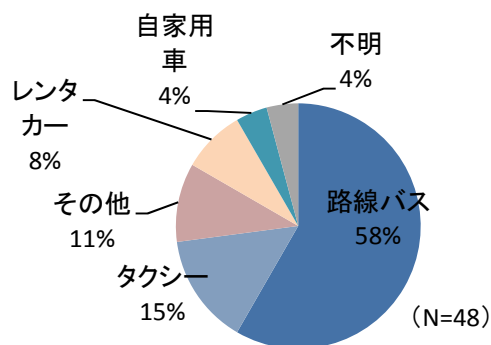
資料:利用者アンケート(観光客)

図-17.南城市への滞在日数



資料:利用者アンケート(観光客)

図-18.宿泊先



資料:利用者アンケート(観光客)

図-19.南城市までの交通手段

### 3)「観光おまかせなんじい」の利用状況の内訳

- 「観光おまかせなんじい」を知ったきっかけは、「観光施設のチラシ・ポスター」が45%と最も多く、その他では「安座真港の看板」、「観光施設の方の紹介」などがあげられていました。
- 「『観光おまかせなんじい』が無かった場合、南城市を訪れていなかったか」との問いには、67%が「関係なく訪問した」と回答しており、「観光おまかせなんじい」そのものが集客力を持つとはいえない状況でした。

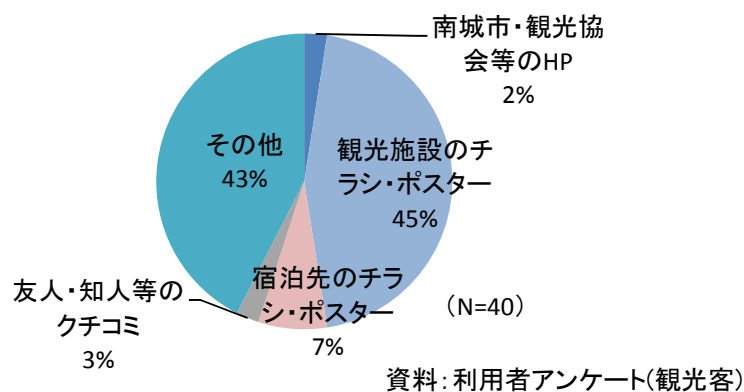


図-20.「観光おまかせなんじい」を知ったきっかけ

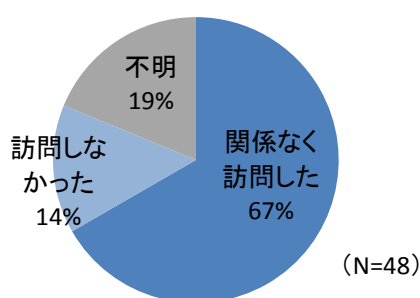


図-21.「観光おまかせなんじい」が無い場合の来訪意向について

#### 4)立ち寄り先

- 利用者アンケートによると、来訪者の立ち寄りポイントは、地域物産館・がんじゅう駅（14サンプル）、安座真港（9サンプル）、ユインチホテル南城、あざまサンサンビーチがそれぞれ（8サンプル）、奥武島（6サンプル）、ニライカナイ橋、おきなわワールド玉泉洞がそれぞれ（5サンプル）となっており、知念地域～玉城地域間が主な立ち寄り地域となっていました。
- 一人あたり立ち寄り箇所数は、平均約 1.5 箇所となりました。
- また、「観光おまかせなんじい」の乗降記録によると、乗車場所としてはこれまで「安座真船待合施設」が41人ともっとも多く利用され、その他では「地域物産館・がんじゅう駅」が30人と乗車場所として多く利用されていました。
- 一方、降車先としては斎場御嶽最寄りの「地域物産館・がんじゅう駅」の43名の他、「新開バス停」が9名、「ユインチホテル南城」が8名、「カフェくるくま」が6名と多く利用されていました。

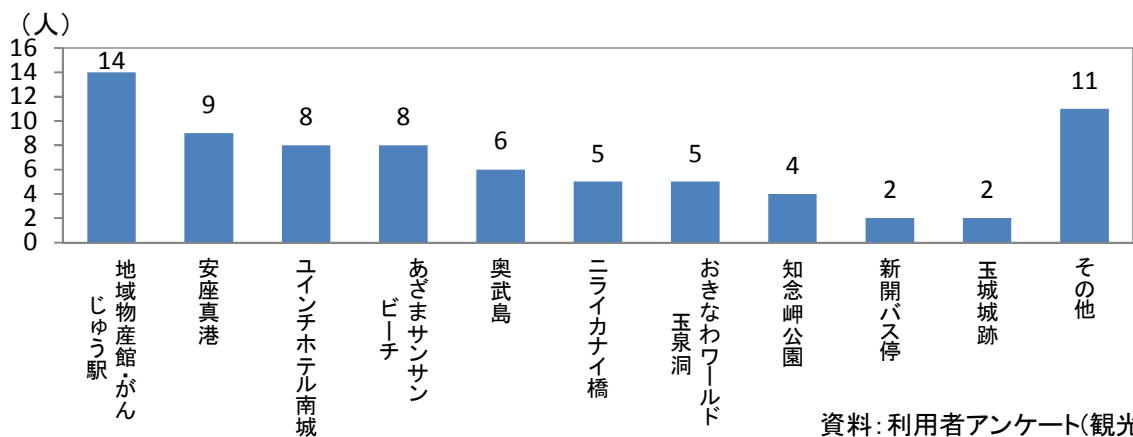


図-22.来訪者の立ち寄り先(複数回答)

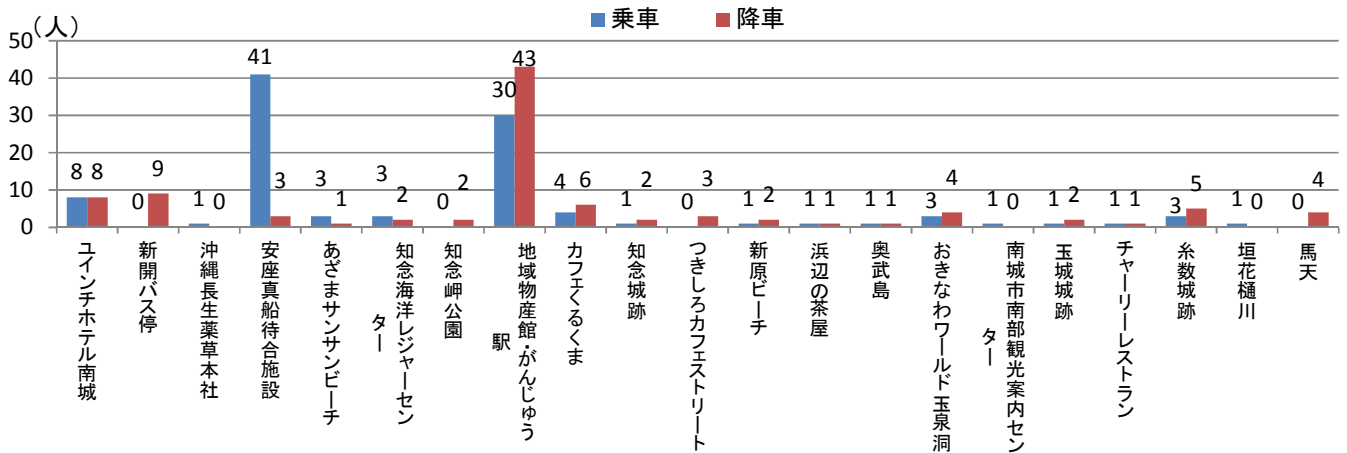
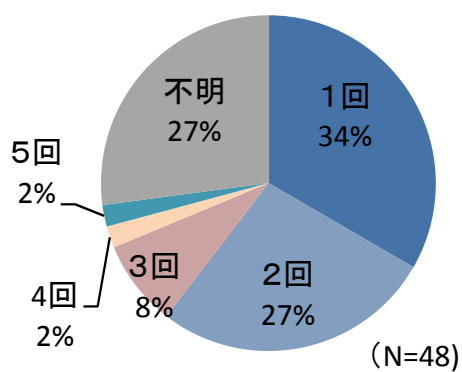


図-23.「観光おまかせなんじい」の乗降場所



### 5) 観光おまかせなんじいの利用状況

●観光おまかせなんじいの利用回数を見ると、2回以上利用している人が39%を占めていましたが、1回のみ利用の方も34%いました。



資料: 利用者アンケート(観光客)

図-24.「観光おまかせなんじい」の利用頻度

### 3. デマンドバス実証運行の評価

表-4. 評価の視点と評価項目

区分	評価内容
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「おでかけなんじい」に対して、利用者の86%は「とても満足」と非常に高い満足度を得ました。</li> <li>●「おでかけなんじい」利用者の過半数は、「おでかけなんじい」がなければ、外出しなかったと回答、また、33%の方は外出頻度が増加するなど、高齢者の外出支援に大きく寄与しました。</li> <li>●具体的には、「高齢者の生きがい作りになる」、「車がないので助かっている」、「今まだ行ったことがないところに行けて喜んでいる」などのコメントが寄せられていました。</li> <li>●南城市内のみでの移動でなく、馬天入口バス停など市外への路線バスの乗り継ぎにも利用されており、日常生活の移動利便性が高まりました。</li> <li>●利用者アンケートでは、100%の方が、今後も「おでかけなんじい」が必要と回答しており、また、有償時の利用頻度の減少は、1～2割程度にとどまるという回答になるなど、利用意向、ニーズは非常に高くなっていました。</li> <li>●なお、有償時の支払意思額は、約300円となりました。</li> </ul>
観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「観光おまかせなんじい」に対して、利用者の69%は「とても満足」と高い満足度を得ました。</li> <li>●具体的には、「レンタカーで来ていないので助かっている」、「久高島や斎場御嶽だけでなく色々回れてよかった」などのコメントが寄せられました。</li> <li>●「観光おまかせなんじい」の降車場所として、「新開バス停」や「馬天入口バス停」が多く利用されており、市民同様に、市外に移動する際の乗り継ぎ手段としても有効に活用されました。</li> </ul>
主要施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療機関では、来訪者の増加などはみられないが、スーパーは、昼間にグループで来店される方が増えるなど「おでかけなんじい」による効果が生じていました。</li> <li>●観光施設は、「観光おまかせなんじい」運行開始から日が浅いこともあり、変化は把握されなかった。</li> </ul>
運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1人だけの乗車が過半数を占め、平均乗員も2.0人と少なく、車両の定員9人を効率的に活用できていない状況にありました。</li> <li>●デマンドバス単独の運営コストが、現在の南城市の公共交通への財政負担を上回っており、コスト縮減方策の検討が必要となりました。</li> </ul>